

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協ひろば

第23号（準備会から通算第44号）

発行日 平成31年3月2日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 田倉 由男

・・・2019年度総会・・・

4月20日（土）14：00～16：00に決定

主要記事＊みんなの食堂、12回のふりかえり・・・東部会長

＊ふれあい活動・ケーススタディのまとめ・・・龍村部会長

＊久木会館の運営に関する提案・・・井上（まちのこそだち久木）代表

31年2月度役員会

31年2月9日（土）、9：30～11：50、久

木会館で20名（うち役員13名）が参加して開催しました。主とした議題は次の通りです。

1. 住民協連絡会の報告

桐ヶ谷新市長が就任されて初めての市長出席の住民自治協議会連絡会が開催されました。会議内容について鈴木事務局長から以下の報告がありました。2月6日開催、4住民協及び1準備会から出席。

①**新市長発言要旨**：それぞれの地域の課題は異なるので住民協は重要な組織だと考える。やってみて初めて分かることが沢山ある。駄目だからやめるではなくどうやって解決するかを考えたい。防

災・減災が最大の課題と認識する。行政は初動に対応できない。毎年変わっていく災害時要支援者にどう対応していくかが大きな課題となっている。

②**交付金の査定結果**：先に住民協から提出した交付金申請額について査定結果の報告があり、久小校区住民協関係では、防災地図作成経費（共通経費）が申請額45万円に対して、財政上の理由から23万円に変更されました。その他は申請通りです。

③**各住民協から活動の報告**がありました。

2. みんなの食堂1年間のふりかえり

東部会長欠席のため、鈴木事務局長から報告がありました。その要旨は次の通りです。

◆30年1月31日・初回、31年1月25日・12回まで8月休みで12回実施した。◆小学生同士、乳幼児を連れた親子、高齢者など様々な年

齢層が集まり、地域交流の場となっている。◆貧困家庭や個食の子供が来ているかどうかは、見た目ではわからない。◆来場百名を目安に受付を締め切っている。締め切り後に来場されてお断りする方が出てしまうのが悩み。12回の参加者総数約1500名。◆調理はさくら組（シニア）と桃

組(若手)のチームワークで、よい雰囲気運営。
本番前の試食会を実施。新しいスタッフの加入が増え定着。◆地産地消で、地元からの野菜、豆腐、お菓子、ジュース、コメ等の提供が毎回ある。
◆紙コップ提供をやめる等のごみ減量の工夫をしている。◆トランプでの席決め、食券制の導入等のルールを入れて混乱の防止を実施。◆毎回の収入は2～3万円、支出は1～2万円。会を重ね

るごとに食材寄付が増えて食材費がかからなくなってきた。◆収入の中から炊飯器・食器を購入した。◆12回の総収入約34万円、総支出約37万円(会場費、運営費を含む)。◆スタッフの間で登校時児童見守りが組織化される等、新しい動きが芽生えている。
◆上記の結果は、31年度の活動や予算に反映されます。

3. ふれあい部会「ふれあい活動のケーススタディのまとめ」の報告

龍村部会長より30年6月から約6カ月間行った山の根地区でのふれあい活動のケーススタディのまとめが報告されました。

①ケーススタディの概要

◆介護、庭木伐採、草刈り、ごみ出し、通院介助、入浴見守り、洋服作成等々のケースについて、サポーターとして延参加人数約40名のケーススタディ。このケーススタディを通して色々な問題点がわかった。

◆依頼を受けるルートの主は、地域包括支援センター→コーディネーター→利用者宅訪問・内容聞き取り→サポーター依頼

◆もっとも簡単な事例(庭木の伐採、80歳代独居女性)：地域包括支援センター→コーディネーター→地域自治会長宅訪問、可否確認→サポーターリーダー下見、可否確認→サポーターに声掛け、日程調整→利用者にコーディネーターから日程連絡の上実施→謝礼授受

◆複雑なケース(高齢者夫妻の介助等)では、ケアマネージャー他関係者が参加してケア会議で話し合い。

②ケーススタディを通して分かったこと

◆コーディネーターの重要性：情報はコーディネーターに入るから、コーディネーターの役割が極めて大切。引き受けの可否、サポーターへの依頼、

有償のふれあいサービスとして扱うか無償のお互いさま活動にするかの判断等々役割を担う。

◆サポーターの依頼：サポーターは単純に募集しても集まらない。具体的なケースでお願いすると快く引き受けてくれるケースが多い。依頼が出てきたときにサポーターをお願いする声掛けがポイント。

◆利用者：依頼されるケースは、地域包括支援センター、社会福祉協議会など既に情報入手手段を持った組織からがほとんど。地域から上がってくることは稀であり、地域で課題が見つけれることが重要。

③これから取り組むこと

◆コーディネーターの設置：先ず情報の受け手としてコーディネーターを置く必要がある。久木会館に常駐・固定電話の設置、携帯電話を通して持ち回りのコーディネーター、地域別のコーディネーター、等々いくつかのアイデアがある。先ずローカルのコーディネーターが情報を受けて、中央のコーディネーターが判断に加わる二段構えも必要か。

◆アンケートの実施：利用者側のニーズの調査、支援する側のできるサービスの内容等を調べて、地域の課題を知り、サービスの掘り起こしを行い、サービスにつなげていく。

◆保険への加入：福祉サービス総合補償を考える。

4. 井上(まちのこそだち久木)代表から久木会館運営に関する提案

久木会館の運営に関して、約半年間、スタッフ1名(週1日・7時間勤務)を増員し、収益性向上の

観点を主として検討を進めたい旨提案あり、原則了承されました。原資は、住民協の自主財源からとします。着眼点は、貸館の時間割、料金、新しい顧客の取り込み、イベント(例えば、鎌倉パス

タを利用して親子の会館活用)等々。同時に住民協事務局業務も兼務します。実施当たって、

検討組織や業務内容、行政との関わり等、今後詰めていきます。

5. 2019年度総会に関する件

①開催日時：4月20日(土)4:00~16:00、久木会館で開催が決まりました。総会案内と次第について事務局より原案の提示がありました。

②2018年決算の見通し：事務局より1月末の予算執行状況から想定して、期の決算は健全である旨見通しの報告がありました。

③役員人事：◆副会長以上の方々の会合で、田倉会長の留任、事務局長は鈴木事務局長から石井達

郎理事に交代することを協議した旨、事務局より報告がありました。◆減災部会長の金子春夫様を理事に推薦したい旨事務局から提案あり、了承されました。◆みんなの食堂等女性パワーを反映させるために女性の登用の提案がありました。◆会計担当の関様から辞任の意向有り、了承されました。◆他の人事は、本人の意向を踏まえながら今後決定されます。

部会報告

減災部会 1月26日 報告者 金子春夫

<出席者> 鈴木(昌)、眞下、森戸、中村、新倉、金子

<開催日時・場所> 1月26日(土) 10:00~11:10 久木会館

①会員動向：鈴木友行委員は本日仕事が入っているため欠席。鈴木(為)委員は山の根自治会避難路チェックのため欠席。

②本日から出席の鈴木昌代氏から挨拶がなされた。

③逗子市地域づくり交付金について：鈴木(為)委員より交付金についてメールがあり、防災地図作成に450,000円、事業経費(防災啓発)30,000円を申請してあるが、決定は2~3月になる予定。(注)その後の査定の結果、地図作成費は23万円となった。

④防災地図作成について：

◎参考資料として◆沼間小学校区住民協が作成した防災施設マップ

◆過去に災ボラが作成した山の根・久木地区の防災マップ。(データの保存状況要確認)

◆森田委員から借用した(株)明細地図社のマップで、山の根・久木地区のデータを購入できるか？またそれを加工できるかを同社に問い合わせる。まずは以上の事項からはじめてみる。

⑤避難所準備委員会の組織・役割について森戸委員から質問があり、金子委員から説明がなされた。今後住民協の関わりを検討していく。

⑥ふれあい部会とみんなの食堂合同で3月31日(日)に久木神社で豆腐作りとカレーライス作りのイベントを予定している。かまどで炊飯するので減災部会に協力の要請があった。詳細が決定してから各自主防災組織に働きかけ、参加する事とする。

⑦防災啓発事項

◆防災行政無線が聞き取れない方が多いので、その対応を啓蒙する必要がある。

(フリーダイヤルで確認する等、また避難準備、避難勧告や避難指示などの意味合いについて)

◆「救急医療情報キット」の普及方法を各地域で検討する。

編集後記

今月号から「グループ紹介」の編集に、齋藤千夏様(ハイランド在住)が新たに参加されました。世代が違い、住む場所が違い、仕事が違う人たちが、それぞれの暮らしの中で「グループ紹介」をして頂くと、地域にこんなグループもあるのかと、新鮮な出会いがあるのではないかと思います。

事務局長 鈴木 為 之

連載「グループ紹介」

第9回 青少年による

湘南ユースオーケストラ

週末の午後、久木小学校の近くを散歩していると、どこからか素敵な音楽が聞こえてきます。

奏でているのは…逗子市民を中心とした若き音楽家たち♪

今回は、素敵な音楽を奏でる“湘南ユースオーケストラ”をご紹介します。

湘南ユースオーケストラとは？

湘南ユースオーケストラは、若い世代に本当の音楽を演奏する喜びを体験して欲しいと、1989年に団員資格年齢10歳から25歳の楽器経験者という青少年によるオーケストラとして結成されました。

当初は皆オーケストラという形で演奏したことがなかったため、音階の練習からのスタートでしたが、月2回の練習を続け、1991年にベートーヴェン「運命」とシューベルト「未完成」で第1回定期演奏会を開催。以来葉山町福祉文化会館ホール、鎌倉芸術館ホールで年1回の定期演奏会を行い、一昨年からは会場を逗子文化プラザなぎさホールに移して開催しています。



▲逗子市立久木小学校で練習している様子

どんな方が指揮・指導しているの？

元NHK交響楽団第一ヴァイオリニストで逗子市民である前澤均先生、前澤悦子先生（弦楽器指導）、早川邦宏先生（管楽器指導）の指導のもとに活動しています。指揮者・前澤均先生の豊富な経験と指導によりレパートリーも広がり、2002年1月には念願のベートーヴェン「第九」の演奏会を逗子アリーナで開催し、大好評を博しました。また、その縁で逗子の第九合唱団との共演も重ねています。現在は、5月5日に逗子文化プラザなぎさホールで予定している定期演奏会に向けて指導を受けています。

どんなメンバーが活動しているの？

10歳から25歳までの楽器経験者約60名で和気あいあいと練習しています。青少年らしく（？）

休憩時にはお菓子を頬張ったり、鬼ごっこをする姿も。弦楽器のメンバーには前

澤先生の門下生がたくさんいます。逗子市民のほか、葉山・鎌倉・横浜・横須賀からも多くのメンバーが参加しています。

第29回
定期演奏会♪

練習の成果を
ぜひ聴きにいらしてください

- 2020年5月5日（日）
- 開演 14:00（開場 13:30）
- 大人1,000円 高校生以下500円
- 逗子文化プラザなぎさホール

問合せ先 事務局（池田）

✉ shonanyouth1989@gmail.com

☎ 046-872-3107

HP <http://shonanyouth.wixsite.com>

湘南ユースオーケストラでは

随時入団を受け付けています！！！！

- ♪ 練習会場 逗子市立久木小学校
- ♪ 練習日時 原則として毎月第1、第3日曜日
- ♪ 団員資格 10歳～25歳の楽器経験者
- ♪ 団費 月額3,000円（入団費3,000円）

詳しくは、メール又は電話で

事務局までお問合せください